



~「真因の追究と再発防止・未然防止」スキルの向上~

『実践！！ 不良対策の進め方』

セミナーのねらい

製造現場におけるマネジメント活動（問題解決）の基本的な考え方の共有と科学的アプローチの習得、ならびに実務への効果的展開を図ります。

直接部門、間接部門を問わず、現場では日々品質不良やクレーム問題が発生していますが、それらは全て「人」に起因しているという考え方に立ちます。「生産の3M」（＝マシン、マテリアル、メソッド）は「1M」（マン）によるマネジメントの結果であるとの考えです。つまり、マシンを作るのも操作するのも「人」、マテリアルを作るのも管理するのも「人」、作業方法（メソッド）を決めるのも「人」、そして決めた事を実行するのは職場の「人」である、という事実を直視したマネジメントが基本です。

そうした考えに立ち、再発防止・未然防止に向けた問題解決の方法とスキル向上に向けた取り組み方を、講師が現場で実践した事例を基にご紹介いたします。

※ご参加に際しましては、皆様の職場における課題（問題事例）を持参ください。

日時／2015年3月6日（金）10:00～17:00

会場／ 東京・渋谷近辺の会議室

受講料／ 日本IE協会会員 32,400円

一般 43,200円

日本生産性本部 賛助会員 37,800円

(消費税・テキスト代を含みます)

講師

日本IE協会専任講師

MC Iバリューコンサルティングサービス㈱

チーフコンサルタント **近藤 學 氏**

【プログラム 3月6日(金) 10:00～17:00】

1. 不良対策法の基本となる活動

2. 品質は工程でつくりこまれる

- ① 工程品質とは
- ② 品質を工程で造り込むための基本

3. 工程の品質向上の効果

- ① 工程不良の低減による効果
- ② 不良のために発生する損失(ムダ)

4. 確実な作業を遂行するための三つの側面

- ① より合理的な製造方法の設計(攻)
- ② 的確なる不具合対策(守)
- ③ キメ細かいフォローアップによる技能向上(走)

5. 不具合の再発を防止しよう

- ① 管理の本質(目的)とは
- ② 管理されていない状態とは

6. 不良対策活動は何故必要か？

- ① ムダは誰のためにもならない
- ② ゴテゴテ処理から先手活動を強める
- ③ 利益確保と能力向上の一石二鳥
- ④ 対策活動は固有技術向上につながる
- ⑤ 対策活動は生きた改善のトリガー
- ⑥ 現場は教材の宝庫

7. 不良対策法の基本となる活動

- ① 異常対象を選び出す(不良のタイプ別分析)
- ② 事実を調べる(状況≠事実)
- ③ 発生原因を究明する(要因≠原因)
- ④ 解決すべき問題を抽出する
(発生している問題≠解決すべき問題)
- ⑤ 対策案を立てる(アイデア≠エンジニアリング)
- ⑥ 対策案を評価する(実現性と効果)
- ⑦ 実施して確認する(定量的評価+定性的評価)

8. 異常対象を選び出そう(顕在異常)

- ① 異常対象の選定は再発防止策の出発点
- ② 異常対象は「顕在異常」と「潜在異常」に大別
- ③ 異常とは、ある“基準とのズレ”
- ④ 顕在異常とは ⑤ 顕在異常を選び出すポイント

9. 事実を調べる

- ・事実を効果的に調べるための原則
- ① 異常対象に対して“異常特性”をつかもう
- ② 焦点を定めて1H(How)を調べよう
- ③ “標準”(基本動作)を理解して観察しよう
- ④ “客観的”な事実から調べる
- ⑤ 当事者から上手に“聴取”しよう
- ⑥ 聴取するときの“順序”を踏もう
- ⑦ 調べた事実のなかから“重大な事実”を決めよう
- ⑧ 必要ならば“標準”も変えよう

10. 発生原因を究明する

- ① 発生原因とは(具体的な欠陥事実)

11. 解決すべき問題を抽出する

- ① 解決すべき問題を抽出する考え方
- ② 解決すべき問題を具体的に表現しよう
- ③ I-G(異常-原因)分析シートから解決すべき問題の抽出例

12. 対策案を立てる

- ① 対策案作成の基本ステップ ② アイディアの強制発想

13. 対策案を評価する

- ① 対策各案について「実現性」「効果性」を評価する

14. 対策案の実施と確認

15. 潜在的な異常対象を選び出そう

- ① 情報(データ)を分析しよう ② 潜在異常の検出のポイント
- ③ 「NGタイプ分析シート」の活用
- ④ 「異常検出ガイドシート」の活用
- ⑤ 分析要因(アイテム)の決め方が 潜在異常検出のポイント

※自社事例を元に分析実習をさせていただきます。(個人ワーク)

講師紹介

日本IE協会 専任講師

MC Iバリューコンサルティングサービス(株) チーフコンサルタント
近藤 學 氏



1970年、ソニー(株)に入社、カラーテレビ生産(量産工場)を皮切りに、一貫してモノづくり現場を歩む。製造事業所においてIE、VAによる「製造の機能的改善アプローチ」による生産性の向上、ならびに不良対策法の開発・運用による品質改善活動に取り組む。1988年、資材本部に移り、資材人事・研修、企画・業務畑を歩み、2002年より、コンポーネントビジネス部門プロキユアメント推進室長として、購買部門の企画管理・業務系の統括職務に携わる。ビジネス部門における下請法遵守体制づくり・教育指導、調達部品における環境品質保証活動(グリーン調達)、CSR活動の推進ならびに、リスクマネジメント体制づくり、BCP策定等に取り組んだ。2007年から製造&調達系のセミナー講師・コンサルタントとして独立、現在に至る。

参加申込は

FAX (03)-3400-8694
ホームページ <http://www.j-ie.com/>

下記ご記入のうえ
このままFAXにて
お申込みください。

参加者および派遣責任者が上記の「個人情報の取り扱いについて」に同意した上で申し込みます。

『実践!!不良対策の進め方』

CH45 2015年3月6日 添田

■ 貴社名		■ 所在地(〒 -)	
氏名		所属/役職	
派遣責任者	フリガナ	E-mail:	TEL: FAX:
参加者(1)	フリガナ	E-mail:	TEL: FAX:
参加者(2)	フリガナ	E-mail:	TEL: FAX:
合計【 】名		参加費【 】円	

■キャンセル規定に関して■

申込受け付け後、おおよそ開催日の10日前になりましたら、参加証(集合案内)、請求書を郵送いたします。正式受付後、参加予定者のご都合が悪く出席できない場合には、代理の方にご出席をお願いします。代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けます。

【(注)※キャンセルは、必ずE-mail、または、FAXにて、日本IE協会までご連絡下さい。】

- ・開催日の7日前~前々日(開催日初日を含まず起算):参加費の50%
- ・開催日の前日および当日:参加費の全額(料金のご返金はできません)

お申込・お問合せ

日本インダストリアル・エンジニアリング協会
THE JAPAN INSTITUTE OF INDUSTRIAL ENGINEERING
〒150-8307 東京都渋谷区渋谷3-1-1
TEL.03-3400-8715 FAX.03-3400-8694
E-mail: jiie@j-ie.com Website: <http://www.j-ie.com/>

担当: 第一企画部
添田・横山

■個人情報の取扱いについて■

1. 参加申込によりご提供いただいた個人情報は、(公財)日本生産性本部の個人情報保護方針に基づき、安全に管理し、保護の徹底に努めます。なお、(公財)日本生産性本部個人情報保護方針の内容については、(公財)日本生産性本部ホームページ (<http://www.jpc-net.jp/others/kojin.joho.html>) をご参照願います。

参加されるご本人、ご連絡担当者の皆様におかれましては、内容をご確認、ご理解の上、お申込いただきますようお願いいたします。

2. 個人情報は、『日本IE協会』の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに日本IE協会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内、および顧客分析・市場調査のために利用させていただきます。
3. 法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。
4. 各種ご案内の送付などを外部に委託することがありますが、委託先にはご本人、ご連絡担当者へのサービス提供に必要な個人情報だけを開示し、サービス提供以外に使用させることはありません。
5. ご本人からの求めにより、開示対象個人情報の利用目的の通知、開示、訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止に応じます。この件については、日本IE協会(会員担当:連絡先 TEL03-3400-8715)または(公財)日本生産性本部総務部個人情報保護担当窓口(TEL03-3409-1112)までお問合せください。【責任者:個人情報保護管理者(総務部長)】
6. お申込書に個人情報を記入するか否かの判断はご本人次第ですが、必要な個人情報が不足していた場合は日本IE協会からのサービスの全部、または一部が受けられないことがあることをご了承願います。
7. 日本IE協会は、クッキー等のご本人が容易に認識できない方法によって個人情報を取得することは行っておりません。
8. 本案内記載事項の無断転載をお断りします。